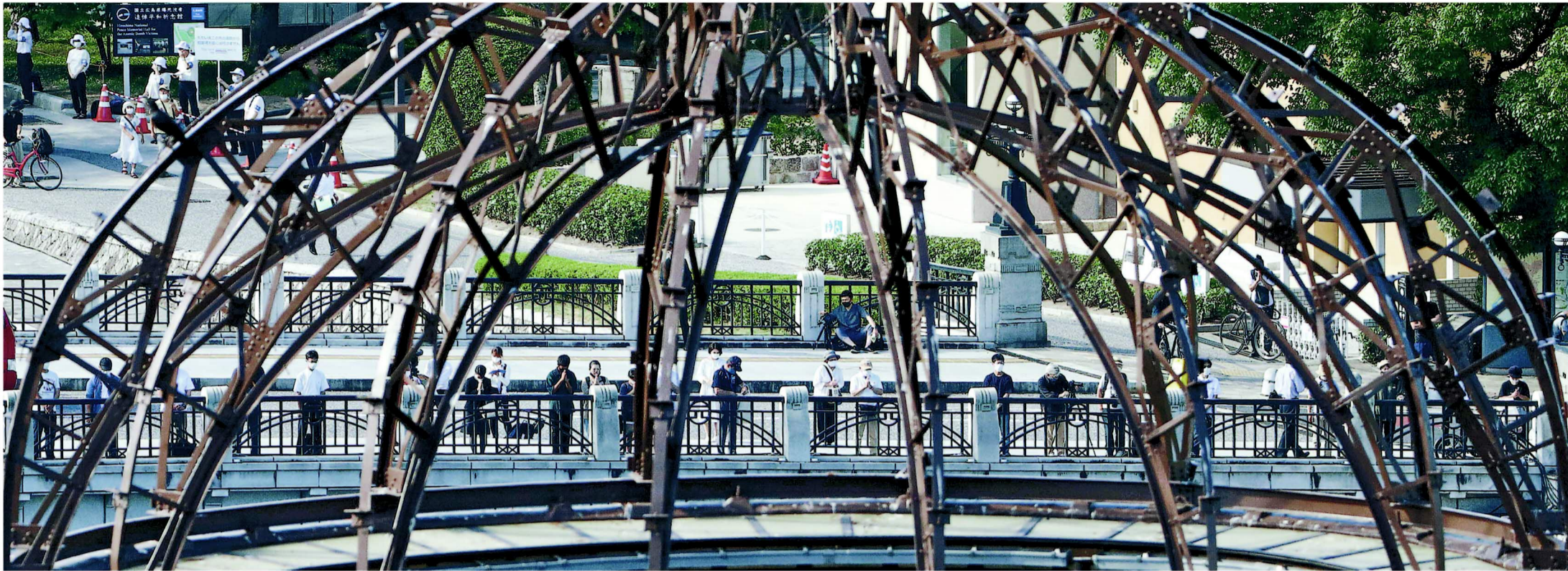


新型コロナウイルス禍で祈りをささげる人がまばらな原爆ドーム周辺。保存工事を終え、焦げ茶色に塗り直した鋼材が当時の悲慘さを強く物語っている



平和記念式典で「ひろしま平和の歌」を聴き、被爆者・遺族席で目頭を押さえた女性。月日は経ても決して悲しみは癒えることはない



あの日を 未来を思う

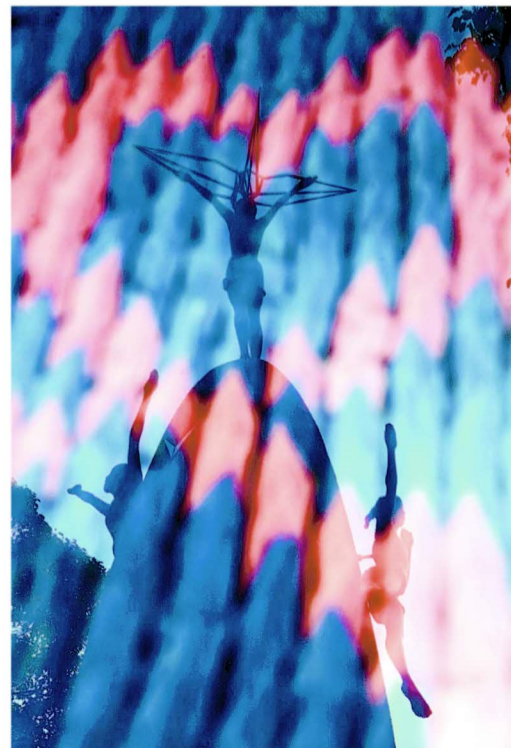
—— 原爆の日



原爆の子の像の前で手を合わせる子ども。ヒロシマから発信する平和への思いは世代を超えてつながっている



最愛の人を思い浮かべ、核兵器なき世界を願った。さまざまな思いが込められた祈りがこの日、広がった



④日付が6日になった直後、原爆供養塔に線香を手向ける女性
⑤各地から届いた思いがこもる折り鶴台。原爆の子の像が映り込んだ